CSR報告書 2011 ダイジェスト版
2011年6月発行　［改訂版］

「NEXCO中日本」ブランド

ブランド・ネーム

会社の英語表記の一部である「Nippon Expressway Company」の頭文字であると同時に「NEXT（次なる）」「Co（共に）」という、ふたつの言葉を組み合わせ私たちの姿勢や熱意を体現しました。

ロゴマーク

シンボルマークは、頭文字「N」を3次元的に造形することによって、未来へと続く高速道路のダイナミズムをあらわすと同時に「道を走ること」がもたらしてくれる心の躍動感をあらわしています。ロゴタイプは、丸みと広がりを持たせたボールド書体によって、ゆとりある道路空間を表現しています。

ブランド・カラー

ネクスコ・オレンジ。中部日本エリアの活発なにぎわいをイメージした、力強くいきいきとしたオレンジ色。

ご案内

■NEXCO中日本お客さまセンター

お客さまからのお問い合わせに正確にわかりやすくご案内いたします。

0120-922-229

■道路緊急ダイヤル

高速道路で異常を発見された際の専用ダイヤルです。ご協力をよろしくお願いいたします。

#9910

■ハイウェイテレホン

お客さまのいる場所から最も近い地域のハイウェイテレホンに接続する専用ダイヤルです。最新の高速道路の交通情報を24時間自動音声で提供しています。

#8162

■交通情報携帯サイト「I Highway 中日本」

■CSR情報

NEXCO中日本グループのCSR活動への取り組みをご紹介します。

http://www.c-nexco.co.jp/corporate/csr/

VOC（揮発性有機化合物）を含まない植物油インキを使用しています。

印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷方式で印刷しています。

適切に管理された森林から生産されたことを示すFSC認証用紙を使用しています。

視認性、判読性に優れたユニバーサルデザインフォント（書体）を使用しています。

未来が変わる。日本が変える。

中日本高速道路株式会社
名古屋市中区錦 2-18-19
三井住友銀行名古屋ビル 〒460-0003
TEL:052-222-1620　FAX:052-232-3736
http://www.c-nexco.co.jp

道を通じて感動を 人へ、世界へ

CSR報告書 2011

道を通じて感動を 人へ、世界へ

ダイジェスト版

NEXCO中日本事業エリア

事業概要

高速道路事業

建設事業：高速道路の整備

計画から施工までのすべての段階で、事業のスリム化とリスク管理の徹底を図りながら着実かつ効率的・効果的に事業を推進し、早期開通などの地域の期待に応えます。

保全・サービス事業：高速道路の維持管理

日本の東西基幹交通を担う大動脈である東名・名神をはじめ、沿線地域の皆さまの生活を支える高速道路の管理・運営を通じて、お客さまに満足していただけるサービスを24時間365日提供します。

関連事業

サービスエリア事業

サービスエリア事業では「お招き」と「おもてなし」の心による接客を心がけるとともに、お客さまに感動していただき、何度も訪ねたくなるようなサービスエリアを創造します。

その他事業

その他の事業では、旅行業やカードサービス事業などを推進するとともに、当社グループの培ってきた技術・ノウハウを活用して海外での事業を積極的に展開します。

NEXCO中日本グループの概要

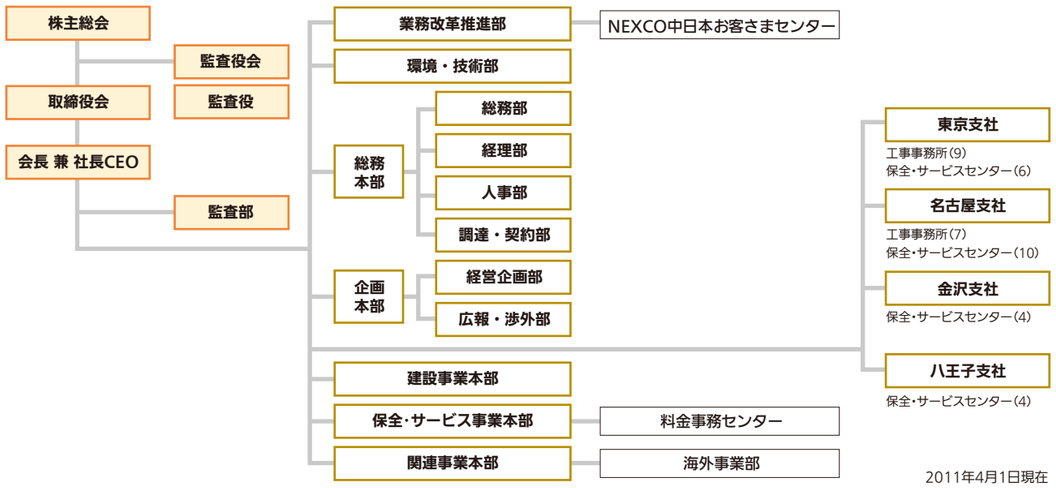
私たちNEXCO中日本グループは、高速道路事業（新東名高速道路や首都圏中央連絡自動車道などの新規ネットワークの早期完成、東名・名神高速道路、中央自動車道などのわが国の基幹をなす路線を24時間365日「安全・安心・快適」に提供するための管理運営、大規模災害時の迅速な対応など）及び関連事業（魅力あるサービスエリアの創造や、積極的な海外事業の展開など）を通じて、地域社会の発展と暮らしの向上、日本経済全体の活性化、そして世界の持続可能な成長に貢献していくことを使命としています。

会社概要

NEXCO 中日本

商　　号：	中日本高速道路株式会社 （Central Nippon Expressway Company Limited）
代　表　者：	代表取締役会長 兼 社長CEO　金子 剛一
本社所在地：	名古屋市中区錦2丁目18番19号
設立年月日：	2005年10月1日
従業員数：	2,117名［連結従業員数8,609名］　2011年3月31日現在
グループ会社：	13社（持分法適用関連会社7社）
資　本　金：	650億円
事業内容：	高速道路の建設、保全・サービス事業、サービスエリアその他の関連事業

組織体制



2011年4月1日現在

グループ概要

■連結子会社 13社

サービスエリア	中日本エクシス（株）
料金収受	中日本エクストール横浜（株）/中日本エクストール名古屋（株）
交通管理	中日本ハイウェイ・パトロール東京（株）/中日本ハイウェイ・パトロール名古屋（株）
維持修繕	中日本ハイウェイ・メンテナンス東名（株）/中日本ハイウェイ・メンテナンス中央（株）/ 中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋（株）/中日本ハイウェイ・メンテナンス北陸（株）/中日本ロード・メンテナンス東海（株）
保全点検	中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京（株）/中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋（株）
サービス	NEXCO中日本サービス（株）

■持分法適用関連会社 7社

技術開発／研究	（株）高速道路総合技術研究所	維持修繕	日本ロード・メンテナンス（株）/中部ホールディングス（株）
サービス	（株）NEXCO保険サービス	料金収受機械保守	ハイウェイ・トール・システム（株）
トラックターミナル	北陸高速道路ターミナル（株）	ICT	（株）NEXCOシステムズ

2011年3月31日現在

トップコミットメント

『道を通じて感動を 人へ、世界へ』
世界一の高速道路会社、
さらには『夢』を実現できる会社をめざして。

初めに、3月11日の東日本大震災により被災された方々に対し、心からお見舞いを申し上げます。

今回の地震という大きな災害を通じて、高速道路という社会インフラがどれほど世の中に必要とされているものであり、それを造り、守る私たちの仕事に対する期待の大きさを改めて認識いたしました。

こうした本来の役割に立ち返り、あらゆる事業活動を通じて、地域社会の発展と暮らしの向上、日本経済全体の活性化、そして世界の持続可能な成長に貢献していくことが私たちの使命だと考えています。

この使命を達成すべく、経営環境がどのように変わろうとも、変わることのない経営理念の根幹として、将来に「『夢』を実現できる会社」という企業ビジョンを掲げ、5年後に「世界一の高速道路会社」となる明確な目標を立てました。

お客さま第一の徹底をはじめ、安全・安心・快適な高速道路空間の創出やお客さまの期待を超えるサービスエリアの創造などを通じて、ステークホルダーの皆さまに感動と満足をお届けするとともに、海外事業をはじめとする新たな事業領域への積極的な展開や次世代高速道路の実現に向けた取り組みなどを通じて、飛躍へのたゆまぬ挑戦を続けてまいります。

高速道路という重要な社会インフラを担う当社グループにとっては、CSRは本業そのものであり、本業を通じてCSRを実践するという経営姿勢に立っています。

コーポレートガバナンスやコンプライアンスへの取り組みはもとより、このたび、当社グループならではのCSR活動として、「安全・安心・快適の推進、感動の提供」「地域連携の強化、地域社会・経済への貢献」「環境・持続可能社会への貢献」を3つの重点領域と定めました。今後は、これらの領域についても、社会やNPOなどと連携しながら、積極的に活動を進めていきます。

このCSR報告書は、経営計画の進捗状況や、世界一の高速道路会社をめざす私たちの日々の取り組み状況をご紹介するものです。

是非ご一読いただき、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

2011年6月

中日本高速道路株式会社
代表取締役会長 兼 社長CEO 金子剛一

NEXCO中日本グループの企業ビジョン

経営理念

私たちの役割

私たちは、常に変革と向上を求め、**安全・安心・快適**で、時代をリードする高速道路空間を創出し、地域社会の発展と暮らしの向上、日本経済全体の活性化、そして世界の持続可能な成長に貢献します。

私たちの基本姿勢

私たちは「より良い会社でより強い会社」をめざすことにより、私たちの役割を果たします。その方向付けとして、以下の『6つの基本姿勢』を掲げます。

1. お客さまを第一にする
2. 社会の信頼を獲得する
3. 革新的であり続ける
4. 環境を重視する
5. 現場に立って考え行動する
6. チームワークを大切にする

経営方針

5ヵ年を通じた経営基本方針

『世界一の高速道路会社をめざして』
～ すべてのステークホルダーの皆さまに感動と満足を ～
～ 飛躍へのたゆまぬ挑戦 ～

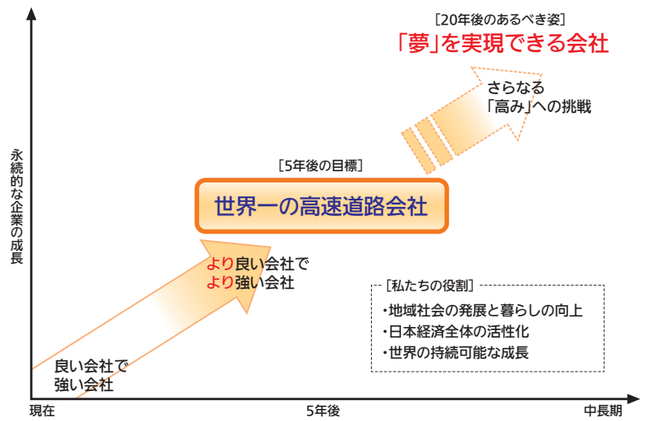
2011年度の経営方針

1. 「世界一の高速道路会社」への着実な第一歩 ～ 2011年度施策の確実な実行 ～
2. 環境変化への柔軟な対応
3. イノベーションの加速

コーポレート・スローガン

『道を通じて感動を 人へ、世界へ』

私たちはお客さまに私たちのサービスを通じて、感動を得ていただけるように常に努めていきます。この感動を、より幅広くさまざまな人へ、さまざまな国へ広げていきます。そして未来につないでいきます。



企業ビジョンの策定にあたって

この企業ビションは、全グループ社員が参加した企業ビジョンキャラバンを68回開催し、そこで出された約6,300の意見を反映するよう、何度も議論を重ねて決定したものです。
さらに2011年3月に策定した経営計画をグループ全員で真に共有し、思いを一つにして目標に向かって進んでいくため、2011年4月から5月にかけて、再度、企業ビジョンキャラバンを78回実施しました。

企業ビジョンキャラバン

特集01

東日本大震災を踏まえた安全・安心の提供

NEXCO中日本グループは、被災地の一日も早い復興を願い積極的に支援します。また、防災体制をさらに強化し、お客さまに安全で安心してご利用いただける高速道路空間を提供します。

東北地方・関東地方に甚大な被害をもたらした東日本大震災で被災された方々やNEXCO東日本に対し、物資の支援や応急復旧への支援など、さまざまな支援を行いました。今回の大震災を受けて、高速道路という社会インフラの重要性を再認識し、防災体制をさらに強化するとともに、新東名高速道路（新東名）の開通による東名高速道路（東名）とのダブルネットワークの形成など、大規模な災害の際にも国民生活に不可欠な交通確保をめざします。

NEXCO中日本グループの東日本大震災対応

NEXCO東日本への支援

飲料水や食料品などの物資や標識車・電源車などの車両支援を実施し、復旧作業に全面的に協力しました。

規制作業支援状況

福島県いわき市への物資輸送支援

トラックを応援派遣し、全国からの救援物資が集まるハブセンターから、避難所各所に物資を届ける輸送支援を行いました。

輸送支援状況

計画停電と節電対応

東京電力管内では、自家発電設備や移動式発電機などにより、お客さまにご迷惑をかけないよう計画停電対応を行いました。今後も本線やトンネル、休憩施設の照明の減灯を行うなど、節電対策を実施します。

建設中の新東名を利用した緊急車両の通行

大津波警報発表により東名が通行止めとなったことから、静岡県からの要請により建設中の新東名を利用し、被災地へ向かう緊急車両の通行を確保しました。

緊急車両通行状況

宮城県石巻市への給水及びトイレ支援

給水車を応援派遣し、浄水場から避難所各所に給水支援を行いました。また、バイオトイレカーを派遣し、トイレの支援も行いました。

給水支援状況

さまざまな取り組み

救援物資の提供や義援金の寄付、被災された方の優先雇用に取り組むとともに、被災地の復興支援を目的にチャリティーキャンペーンを開催しています。

東北物産フェア

現状の防災に対する取り組み

今回の地震では東名・中央自動車道（中央道）などの一部の路線が通行止めとなりましたが、幸いにも大きな被害はありませんでした。しかし、「東海・東南海・南海地震」及び「首都直下地震」をはじめ、管内には大きな被害を及ぼす恐れがある地震が想定されています。またこれらの地震が連動して発生する可能性も指摘されています。

当社では、お客さまに安心して高速道路をご利用いただくため、従来から災害に備えてグループ一体となった防災体制を整えるとともに、道路の点検や、橋梁の耐震補強、盛土補強対策など災害に強い道路づくりに取り組んでいます。

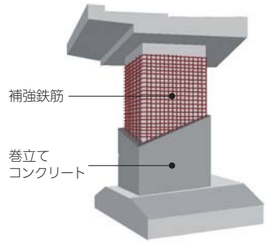
安全点検の実施

当社では地震発生後は速やかに道路の点検を実施し、道路の安全性を確認します。また、橋梁のコンクリート片のはく落対策などによる第三者被害防止に向け、緊急安全点検の結果に基づき、ほかの道路との交差箇所などの対策を2012年度までに完了します。また、補修完了後も点検を継続し、「百年道路」計画に基づき構造物の適切な管理を行います。

橋梁の耐震補強

大規模な地震発生時において、甚大な災害を防止するため、1979年以前の道路橋示方書の基準を適用した橋脚について、1995年から工事を実施し、2010年度までに対象9,950基のすべての橋脚の補強が完了しました。

▼RC巻立て工法



盛土補強対策

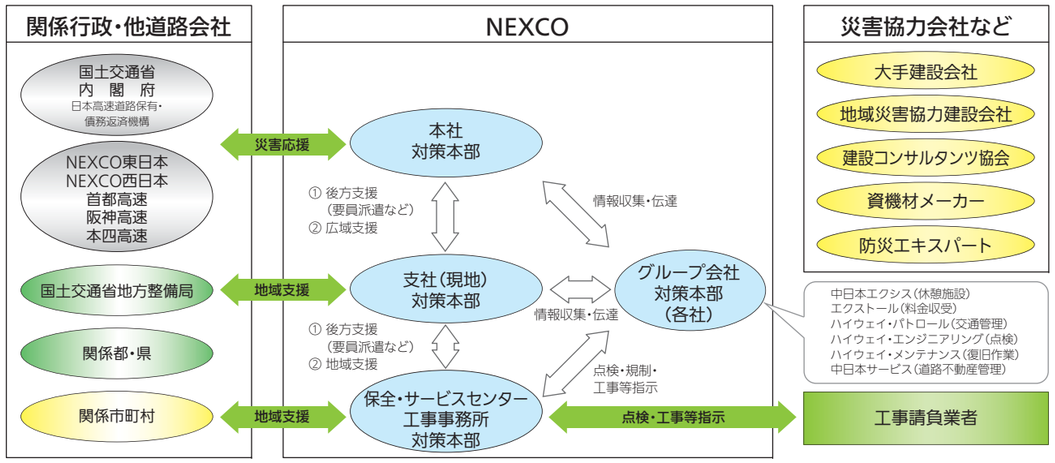
2009年8月の駿河湾を震源とした地震により被災した東名 牧之原地区の盛土の本復旧については2010年7月に完了しました。また、被災した盛土の類似箇所の詳細調査・対策計画を踏まえ、2011年度に19箇所の盛土補強対策を実施します。

被災直後の状況（2009年8月）

本復旧後の状況（2010年7月）

防災体制の確立

当社では、災害が発生した場合に備えて、早期に高速道路の通行を確保するため、グループ一体となった防災体制を確立しています。また関係機関との連絡体制を構築し、関係行政や地域との連携を図っています。



東日本大震災を踏まえたさらなる防災体制の強化

今回の東日本大震災の教訓を活かし、大規模地震や大津波・原子力発電所などによる災害を想定した業務継続計画（BCP）を全社展開し、グループ一体となった防災体制をさらに強化します。また、大津波を想定した高速道路を走行中のお客さまへの情報提供や、休憩施設のお客さまの避難場所への誘導方法など、詳細な検討を行うとともに、防災訓練を実施するなど地域と一体となった防災体制の強化を図っていきます。

沿岸部に近接する高速道路

東名における近接箇所（静岡県静岡市）

（参考）BCP：業務継続計画（Business Continuity Plan）とは、大規模な災害・事故などが発生した場合に、基幹業務の継続や、早期に業務を再開するために策定する行動計画です。

特集02

高速道路ネットワークの充実

信頼性の高い高速道路ネットワークの構築により、お客さまにとって安全・安心・快適な高速道路空間を提供します。

NEXCO中日本グループでは、取り巻く経営環境の変化に機動的に対応しながら、2015年度までに306ｋｍの高速道路を新規に開通し、社会経済活動の根幹を支えるインフラとして、地域相互の交流、沿線地域の産業の活性化、他の交通機関との有機的結合による人・モノ・情報の流れの円滑化などに貢献します。

名二環（名古屋南JCT～高針JCT）は、2011年3月20日に開通しました

名古屋高速３号大高線など名古屋市内の東部・東南部に位置する幹線道路は、これまで慢性的な渋滞が発生していましたが、2011年3月20日に名古屋第二環状自動車道（名二環）（名古屋南JCT～高針JCT）が開通し、伊勢湾岸自動車道（伊勢湾岸道）と接続することで、大幅に渋滞が改善され、お客さまの利便性が向上するものと期待されています。

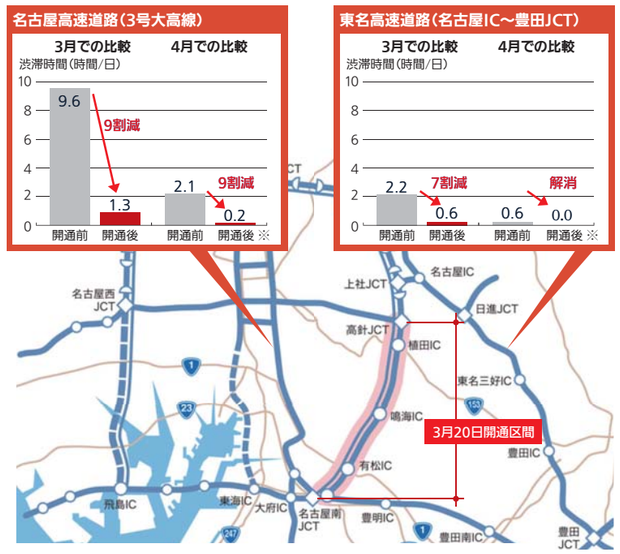
［周辺高速道路の渋滞状況：開通１ヵ月後］

●名二環と並行する名古屋高速3号大高線では、開通前と比べて3月、4月の1日あたり延べ渋滞時間が約9割減少しています。

●東名（名古屋IC～豊田JCT）では、3月の1日あたり延べ渋滞時間が約7割減少しており、4月は渋滞が解消しています。

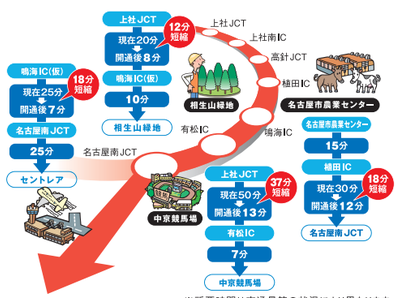
●両路線ともに、名二環の開通により1日あたりの延べ渋滞時間が減少していますが、東日本大震災（2011年3月11日）の影響も考えられます。

開通直後のお客さまの車両



※名二環開通前（3月）：2010年3月21日（日）～2010年3月31日（水）までの平日平均渋滞時間
（4月）：2010年4月1日（木）～2010年4月20日（火）までの平日平均渋滞時間
名二環開通後（3月）：2011年3月21日（月）～2011年3月31日（木）までの平日平均渋滞時間
（4月）：2011年4月1日（金）～2011年4月20日（水）までの平日平均渋滞時間

◎整備効果：所要時間の短縮
セントレアなど主要地点までの所要時間が短縮されます。
例：鳴海IC→セントレア間
開通前50分→開通後32分
（18分短縮：名二環を利用した場合）



※所要時間は交通量等の状況により異なります。

主要地方道・名古屋第二環状線の名古屋市天白区野並付近の渋滞状況

【開通前】
2011年3月1日（火）9時頃

【開通後】
2011年4月20日（水）17時頃

2015年度までの開通予定

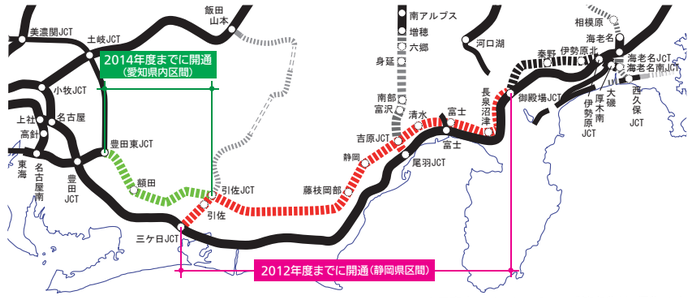
道路名	区間（IC・JCT名は仮称を含む）	延　長	完成年度	備　考
新東名	御殿場JCT～三ケ日JCT	162km	2012	新東名静岡県内初の開通
	引佐JCT～豊田東JCT	55km	2014	御殿場以西のダブルネットワーク化
新名神	四日市JCT～四日市北JCT	4km	2015	新名神の着実な延伸
紀勢道	紀伊長島～紀勢大内山	10km	2012	紀勢道の着実な延伸
舞鶴若狭道	小浜～敦賀JCT	39km	2014	舞鶴若狭道全線開通
圏央道	西久保JCT～海老名JCT	9km	2012	中央道・東名・新湘南バイパスが圏央道を介して接続《圏央道西側区間の完成》
	海老名～八王子南	25km	2012	
	八王子南～八王子JCT	2km	2011	
計		306km		

※連絡路（引佐JCT～三ケ日JCT）などを含む延長です。

新東名の整備（静岡県区間は2012年度、愛知県内区間は2014年度）

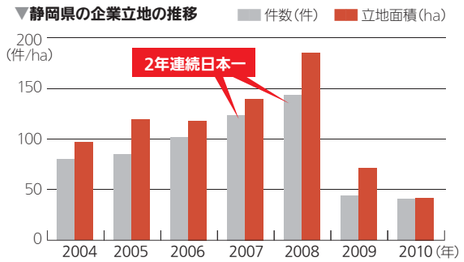
新東名は、混雑が著しい東名との適切な交通分担機能をもち、日本の産業・文化・社会経済活動の振興に、大きく寄与することが期待されています。また、東名に比べて緩やかなカーブと勾配で計画されており、より安全で快適な走行が可能となります。

静岡県区間（御殿場JCT～三ケ日JCT）を2012年度までのできる限り早期に、愛知県内区間（引佐JCT～豊田東JCT）を2014年度までに開通させます。また、新名神高速道路（新名神）の四日市JCT～四日市北JCTを2015年度までに開通させます。



※工事中のインターチェンジ等名称は、仮称です。

◎想定される整備効果：
新東名開通により高速道路へのアクセスがさらに向上し地域社会に貢献

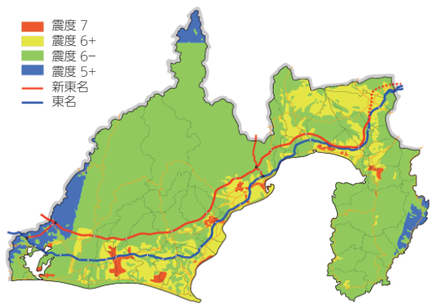


富士山フロント工業団地（新東名から2km、5分）静岡県HPより作成

［ダブルネットワーク形成の効果］

●東名とダブルネットワーク化することにより、緊急時の代替ルートの確保や「百年道路」計画の実現に向けた東名・名神リニューアル工事の展開が可能となり、大都市間の物流・経済を支える大動脈としての信頼性を確保します。

●新東名は東名と比べ山側を通過しており、今後30年間に発生する確率が87%※と予想される東海地震が発生した場合にも、被害を受けにくいと想定されています。※地震調査研究推進本部HPより



東海地震による震度分布図（第三次想定結果）
（財）静岡総合研究機構 防災情報研究所

◎緊急時の代替ルート：
2009年8月の駿河湾を震源とした地震により東名の一部が通行止めとなりました。特に混雑が著しい大井川の渡河区間において、建設中の新東名 大井川橋を地域の皆さまを対象に緊急通路としてご利用いただきました。

特集03 お客さまに感動していただけるサービスエリアへ

お客さまに感動していただけるサービスエリアをめざして、「お招き」と「おもてなし」の心で、「お客さまにとっての真のくつろぎの場」「お客さまと地域のふれあいの場」としてのサービスエリアを創造します。

店舗リニューアルにより複合商業施設化を実現し、新しいショップや新業態を積極的に導入することで、さまざまな場面に応える魅力的なショッピング環境やスタイリッシュなサービスを提供し、お客さまを「お招き」「おもてなし」します。
また、沿線自治体やサービスエリアの周辺地域との連携強化、テナントと一体となったサービスの向上により、お客さまとの交流が広がるサービスエリアづくりを進めます。

新・感動サービスエリア「EXPASA」誕生

お客さまにとって、真のくつろぎの場となるサービスエリアをめざし、新しいサービスエリアのかたちとして「EXPASA（エクスパーサ）」というブランドネームの商業施設を展開しています。

「EXPASA」は、店舗のリニューアルに合わせ施設を大規模に造りなおし、新しいショップや新業態を積極的に導入するべく、MD（商品構成）からリーシングまでゼロから作り上げた施設です。

2010年度オープン（5箇所）		
東　名	EXPASA足柄	上り・下り
名　神	EXPASA多賀	下り
東名阪道	EXPASA御在所	上り・下り
2011年度オープン予定（2箇所）		
東　名	EXPASA海老名	上り
中央道	EXPASA談合坂	下り

東名 EXPASA足柄（上り）

東名阪道 EXPASA御在所（下り）

名神 EXPASA多賀（下り）

お客さま満足の向上

お客さまに真に満足していただくために、接客コンテストによる表彰制度の導入やサービスエリアコンシェルジュのサービスのレベルアップを通じて、お客さまを「おもてなし」します。

接客コンテスト競技シーン

サービスエリアコンシェルジュ

お子さまや愛犬と一緒に楽しいドライブ

家族みんなで一緒に楽しくくつろぐことのできるサービスエリアをめざし、キッズスペースやドックランを兼ね備えた店舗づくりを進めています。

東名阪道 EXPASA御在所（下り）　キッズトイレ

東名 EXPASA足柄（下り）　ドッグラン

さまざまなお客さまのニーズに応えるサービスエリアづくり

女性・若手社員で構成するプロジェクトや産学協同プロジェクトによるサービスエリアのプロデュースを推進するとともに、女性に好まれる情報発信をコンセプトに、女性社員によるブログを運営し、耳よりな情報を発信していきます。

女性・若手社員プロジェクト

ブログ『NEX子中日本 HAPPY☆ドライブ』

産学協同プロジェクト

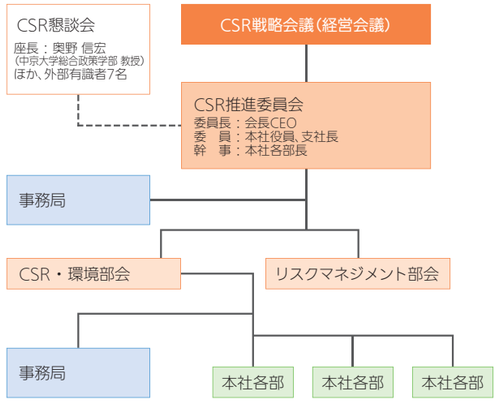
東名 EXPASA足柄（上り）　女性専用トイレ

CSRマネジメント

NEXCO中日本グループは、CSRをはじめ、リスクマネジメントやコンプライアンスを推進する体制を構築し、ガバナンスの充実に努めています。

CSR推進体制

当社では、会長CEOが議長である「CSR戦略会議」のもと、CSR推進委員会において、当社のCSR活動を戦略的に展開していく体制を構築しています。



NEXCO中日本グループのCSR活動

本業を通じて的確に社会の期待に対応することが私たちのCSR活動です。当社グループは、経営理念を実践し、私たちの役割を果たすことによって、持続可能な社会づくりに貢献します。

コーポレートガバナンス

当社では、2006年5月に「業務の適正を確保するための体制に関する基本方針」を策定し、この方針に基づき、各種内部統制システムを整備しています。

定例の「取締役会」を月1回開催し、重要事項(グループ会社の経営に関する重要な事項を含む)について決定するとともに、取締役の職務執行状況を監督しています。

また、2007年6月からはグループ全体に影響する全社執行方針の決定・情報共有、グループ全体として共有すべき情報の伝達、確認などのため、全取締役、執行役員などに、グループ会社の社長などを加えた、グループ全体の会議を定期的に開催しています。なお、監査役はこれらすべての会議に出席し、社内全般の業務執行を監査しています。

リスクマネジメント

当社グループでは、事業活動に関わるさまざまなリスクに適切に対処するため、内部統制システムの一つであるリスクマネジメントシステムを整備し、グループ全体でリスクマネジメントシステムの確実な運用を図っています。

コンプライアンス

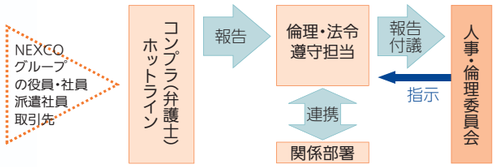
当社グループがめざす企業像である「より良い会社でより強い会社」の実現に向けてコンプライアンスを徹底しています。単なる法令遵守でなく、社会的要請へ適切に対応することと捉え、積極的に取り組みを行っています。

役員及び社員の高度な倫理観の確立のために必要な事項や不祥事の原因究明及び未然防止のために講ずべき措置について検討することなどを目的として、外部有識者を委員とした「人事・倫理委員会」(委員長:杉田 和博氏　JR東海(株)顧問)を2005年11月に設置し、2010年度は2回(4月・1月)開催しました。

また、社内相談窓口として「コンプラホットライン」を開設し、コンプライアンスに関する通報・相談を通じて、社内秩序・規律の保持、不祥事の未然防止などを図っています。

このほか、セクハラに関する社内相談窓口やグループ全体を対象とした社外相談窓口である「コンプラ弁護士ホットライン」など、社員の相談に対する窓口体制の充実を図っています。

▼コンプラホットライン



社会的報告

お客さまとともに

NEXCO中日本グループは、「お客さま第一」を徹底し、お客さまが「安全・安心・快適」にご利用いただける高速道路空間を創出するための取り組みを推進しています。

お客さま第一の徹底

当社グループ全体で事業活動を通じてお客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまの満足の向上に努めます。CS活動や社員教育を推進していくことにより、「お客さま第一」を徹底し、信頼と好感を得られる企業をめざします。

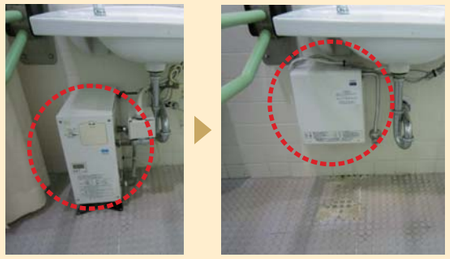
お客さまのご意見・ご要望をグループ内で速やかに共有し、迅速に企業活動に反映するため、2010年度にグループ全体の共有システムを整備しました。

また、「お客さま第一」を徹底するため、お客さまセンターの体制や社員教育の充実を図り、CS向上を推進しています。

TOPICS　お客さまの声の反映事例

～障がい者用トイレの改修～

「障がい者用洗面台を車椅子で使用する場合、下部に設置されている機器が支障となり使用しづらい」とのお客さまの声をいただき、速やかに小型のものに交換しました。



交通事故対策

お客さまに安全で安心してご利用いただける高速道路空間を提供するため、事故多発箇所や重大事故発生箇所における対策の実施、逆走事故防止対策などを進めるとともに、高速道路の安全走行ガイドの配布や交通安全セミナーの実施による安全啓発活動を進めています。

速度抑制レーンマーク

薄層舗装

逆走防止装置

交通安全の啓発活動

お客さまに高速道路の「要注意箇所」や安全走行のアドバイス、各種事故対策などをご紹介した「気をつけガイド」を継続配布するとともに、交通事故の発生状況や安全走行のポイントなどをお客さまに直接お伝えする交通安全の学習会「交通安全セミナー」を2010年度までに約8万名の方々に受講いただきました。

交通渋滞対策

安全・渋滞対策の推進のため、2車線の一部区間を3車線化する暫定運用や、付加車線の設置を行うとともに、既存高速道路ネットワークの機能強化の推進のため、LED標識による情報提供、モバイルを活用した渋滞予測の配信などを実施し、渋滞緩和に向けた取り組みを行っています。

渋滞量が全国で最大規模である東名 岡崎地区の渋滞・事故対策として、新東名開通までの間、現在の2車線を暫定的に3車線運用する工事に着手し、2011年秋より運用を開始します。同様に渋滞の激しい東名阪自動車道(東名阪道) 四日市地区についても、並行する新名神が開通するまでの間、さらなる渋滞対策の検討を進めます。

また、サグ部(下り坂から上り坂に変わる部分)などの速度低下に起因する渋滞多発箇所にLED標識板を設置し、お客さまへ速度回復の呼び掛けを行うことにより、渋滞規模の軽減を図っています。

LED標識板

▼設置箇所例

社会的報告

お客さまとともに

NEXCO中日本グループは、「お客さま第一」を徹底し、お客さまが「安全・安心・快適」にご利用いただける高速道路空間を創出するための取り組みを推進しています。

「安全・安心・快適」な次世代の高速道路空間の創出

新東名リーディングプロジェクトにおける実証実験を踏まえて、「世界をリードする高速道路システム」を構築します。

▼新東名リーディングプロジェクト

視点	長期目標（新東名の全線開通時（2020年）以降）
安全・安心の実現	・交通事故死亡者限りなくゼロをめざす ・交通事故件数、負傷者数半減をめざす 特に、大型車に起因する悲惨な事故撲滅をめざす
環境への配慮	・二酸化炭素排出量半減をめざす
多様なライフスタイルの実現	・SA・PAなどでのユニバーサル対応、環境保全※1、情報アクセス完備※2をめざす ※1 太陽光発電の導入など ※2 無線LANの全施設整備（本線含む）など
活力ある社会実現	・幹線部の自動車貨物輸送コスト半減をめざす ・安定した速達性、定時性確保をめざす

「百年道路」計画

高齢化する高速道路ネットワークに対し、国民生活に必要不可欠な高速道路を健全な状態で百年以上維持し、後世に優良な道路資産を継承するため、対症療法的な「事後保全」から「計画保全」への転換を推進する「百年道路」計画を2011年度から実行します。

より快適な高速道路空間をめざして

多様化するお客さまのニーズにお応えし、「お招き」と「おもてなし」の心でお迎えするため、常に「お客さまの声」に耳を傾け、いただいたご意見・ご要望について積極的に対応し、お客さまに快適に走行していただける高速道路空間を提供します。

休憩施設におけるサービスレベルの向上とユニバーサルデザインを推進し、すべてのサービスエリア・パーキングエリアで、2012年度までにお手洗いの段差解消、障がい者駐車場の上屋整備、オストメイト対応、洗面台の温水化などを行います。

お手洗いの段差解消

オストメイト対応トイレ

新事業によるサービスの展開

当社グループでは、お客さまに高速道路のファンになっていただくためのサービスとして旅行業やカードサービス事業などを推進するとともに、地域・社会に貢献できる新たな事業領域に挑戦します。

これまでの「建設中の高速道路ウォーキングツアー」や「高速道路探検隊」に加え、2010年度は新たに、太陽光発電や壁面緑化など、「環境に配慮した取り組み」を行っている高速道路の建設現場や管理施設を見学するバスツアーを実施し、約2,000名のお客さまに高速道路事業への親しみとご理解を深めていただきました。

今後はこれらのツアーに加え、他企業の素材なども組み合わせて、他の旅行会社が取り組めない当社ならではのツアーを開発していきます。

開通前の名二環で太陽光パネルを見学

高速道路の建設現場から採取した地域性苗木※を育成している（株）高速道路総合技術研究所の「緑化技術センター」を見学
※地域性苗木：P22参照

また、高速道路の有効スペースを活用した事業として、現在、東名や中央道などの高架下で駐車場を営業しています。さらに、無人パーキングエリアなどに地域貢献型自動販売機（平時は文字ニュースで情報発信、災害などの発生時には遠隔操作で飲料を無償提供）の設置を進め、2010年度には4箇所で増設しました。

中央道 高架下駐車場

地域貢献型自動販売機

社会的報告

地域社会とともに

NEXCO中日本グループは、産業・観光の発展など地域社会・経済へ貢献するとともに、災害時の支援など地域との連携を強化しています。

スマートICなどの整備

お客さまの利便性の向上、さらには地域間の連携の強化、地域生活や産業の活性化などを目的に、スマートICなどの整備を進めています。

スマートICは、2010年度に新たに1箇所を整備し、現在12箇所で運用しています。現在事業中の10箇所について、地域との連携やコスト縮減を行いながら着実に整備します。

▼スマートIC一覧（運用中）

運用開始年度	路線：スマートIC名称（仮称）
2006	北陸道：入善 徳光 中央道：双葉
2007	東名：富士川 遠州豊田 東名阪道：亀山PA
2009	東海北陸道：ひるがの高原 東海環状道：鞍ヶ池 北陸道：南条 安宅 流杉
2010	長野道：梓川

▼スマートIC一覧（事業中）

完成予定年度	路線：スマートIC名称（仮称）
2012	中央道：府中 新東名：静岡SA 浜松浜北 東海環状道：五斗蒔
2013	名神：湖東三山
2014	東名：守山 中央道：富士吉田北 東海北陸道：南砺 北陸道：高岡砺波
2015	東名：大井川藤枝

地域と密着したサービスエリアづくり

サービスエリア周辺のより多くの地域の皆さまにサービスエリアをご利用いただけるよう、「ぷらっとパーク」の整備を進めています。

また、高速道路と地域との交流の拠点となるよう、地域に根ざした店舗や地域産品直売店の展開などを進めています。

東名 EXPASA足柄（上り・下り）　ぷらっとパーク

さらに、地域との交流イベントとして、東名 富士川SA（上り）、浜名湖SAで「ふじのくに地産地消週間」に合わせて農匠マーケットを開催するなど、地域との連携を深めながら、地産地消を推進しています。

農匠マーケットの開催風景　東名 富士川SA（上り）、浜名湖SA

社会貢献の取り組み

当社グループは、地域社会の一員として、地域の活性化や福祉の充実に向けた活動を地域の皆さまとともに進めています。

また、小・中学生、高校生など未来を支える子どもたちへ高速道路事業を通じて教育支援をしています。

授産施設への就労支援

2010年7月から金沢支社では、富山・石川・福井の3県の障がい者団体と連携して、授産施設をご利用の方へ、サービスエリアやパーキングエリアに設置してある草花プランターの入れ替え作業を委託し、働く場を提供する支援をしています。

草花の入れ替え作業の様子

地元高校生へ現場で伝えた土木の魅力

2010年12月14日に、静岡県立島田工業高校都市工学科の2年生と先生方約50名を招き、新東名で土木の魅力を伝える現場研修を開催しました。舗装工事や橋などの現場では、模擬体験を交えながら説明を行い、また、現場で働く若手社員も参加して「土木の仕事」に関するグループ討議を行うなど、直接体感しながら学べる研修となるように工夫しました。

静岡SAでの現場見学の様子

夏休みの自由研究に一新聞紙で作る「橋作り教室」

2010年7月24・25日に、夏休みの自由研究に役立ててもらおうという企画で、新聞紙で作る高速道路「橋作り教室」を名古屋市の本社にて開催しました。実際の橋の種類や構造を説明した後、新聞紙の重さ測定や耐荷実験などを行い、橋の制作に取り組みました。新聞紙の強度に驚いたり、時間ぎりぎりまで頑張る子どもたちの姿がみられました。

新聞の重さを計測

親子で橋を制作

社会的報告

地域社会とともに

NEXCO中日本グループは、産業・観光の発展など地域社会・経済へ貢献するとともに、
災害時の支援など地域との連携を強化しています。

包括的提携協定による地域活性化

関係自治体や地域拠点大学と包括的提携協定を締結し、高速道路を活用した地域産業・観光の振興、地産地消の促進、文化の交流、人材育成などにおける連携や、災害発生時の協力体制を強化しています。

2009年度までに11県、2010年度には東京都と包括的提携協定を締結しました。これにより当社事業エリアすべてとなる12都県と包括的提携協定を締結しました。

協定の締結状況

活動事例

防災分野での相互協力（静岡県）

建設中の新東名を活用した防災訓練を静岡県と共同で実施しました。

災害発生時における迅速な復旧・救援対応

災害発生時の被害拡大を防ぎ、早期に道路交通を確保するために、グループ一体で防災体制を強化するとともに、国や自治体などと緊密な連携を図りながら、迅速な復旧・救援に向けた対応を行います。

災害対応事例1

2010年5月23日に大雨により東名阪道 亀山JCT付近で切土のり面が崩落しました。深夜の被災にも関わらず、迅速に応急復旧工事を開始し、約17時間後には通行止めを解除しました。

のり面崩落状況

災害対応事例2

2010年9月8日に台風9号による大雨のため東名 鮎沢PA（上り）付近で用地外からの土砂が流入し、通行止めとなりました。約21時間後に通行止めを解除し、その後応急復旧工事のため、上り線を閉鎖し、下り線2ルート（左右ルート）を上下線に活用し、交通を確保しました。

土砂流出状況

また、万一災害が発生した場合、応急活動が迅速かつ適切に行われるよう、防災体制の実効性を確認・検証するとともに、関係機関、グループ会社などの幅広い参加を通じて、社員の一人ひとりが防災に対して考える防災訓練を実施しています。

2010年度は9月1日の「防災の日」に、グループ一体で総合防災訓練を行いました。

消防との合同訓練

TV会議を利用した本部運営訓練

社会的報告

国際社会との関わり

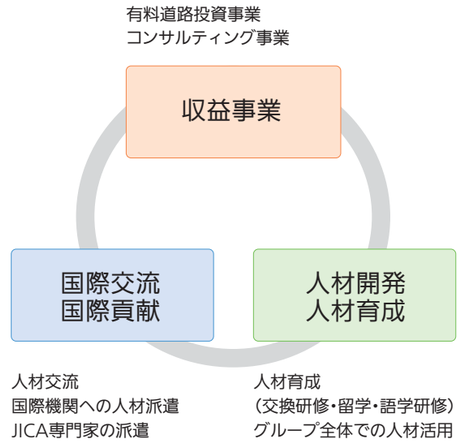
NEXCO中日本グループの培ってきた建設・維持管理などに関する技術・ノウハウを活用して、
海外での事業を積極的に展開することにより、世界の道路整備に貢献します。

海外への展開

当社グループ全体がこれまで蓄積した高速道路に関するさまざまなノウハウ・技術力を、国内だけでなく、海外にも展開していきたいと考えています。海外道路事業者との情報ネットワークの強化や積極的な国際貢献を引き続き行うとともに、グループ全体の人材を活用し、アジア地域を中心とした海外有料道路事業へ参画していきます。

NEXCO中日本の海外事業展開方針

①海外収益事業への参画
②国際協力・国際貢献
③人材育成・活用
の3つの要素を柱として海外事業を展開しています。



国際交流・国際貢献

海外道路事業者との関係強化を図るとともに、情報収集や相互の人的交流を深めています。国際会議・セミナーなどへの参加やJICAなどを通じた各国からの研修・視察の受け入れによる情報発信を行っています。

当社社員のPLUS社での研修

PLUS社員の当社での研修

PLUS社（PLUS Expressways Berhad）：マレーシア最大の高速道路事業者

東名の管理施設で維持管理車両を視察するアフガニスタン道路関係者

新東名で排水実験を視察するベトナム道路関係者

また、道路の整備が遅れている発展途上国に社員を派遣し、高速道路の設計、施工、維持管理について専門的な指導を行っています。

2010年度は計5名の社員（継続中含む）がそれぞれの国で活躍しました。

ITSについて講演する当社社員（ベトナム）

▼発展途上国への専門家派遣

対象国	期間	派遣先
スリランカ（1名）	2008年5月～2011年4月（3年）	道路開発庁
ベトナム（1名）	2010年5月～2012年4月（2年）	交通運輸省
エチオピア（1名）	2010年3月～2013年2月（3年）	大使館
スリランカ（2名）	2011年3月13日～19日（1週間）	道路開発庁

さらに、2010年度はベトナム、フィリピン及びキルギスにおいて高速道路建設事業のフィージビリティースタディや高速道路の維持管理など、7件の業務を受注しました。今後も、当社グループのもつ技術力を活かし、コンサルティング業務の展開を図っていきます。

ベトナムで受注した橋梁点検研修の一環として日本で実地訓練を行うベトナム道路関係者

社員とともに

NEXCO中日本グループは、5年後の「世界一の高速道路会社」を実現するために、
厳しい環境の中でも成長し続ける変革への強い意志をもった社員を育成します。

人材育成の充実

“社員は会社にとって、最大の『財（たから）』である”との考えのもと、当社の求める社員像に基づき、環境変化への感度が高く、自律性を発揮できる「強い現場力をもった社員」の育成を実施しています。仕事を通じたOJTを基本に、階層別・専門研修などの集合研修や自己啓発などのOFF-JTと連携し、社員がめざすべきキャリアの実現を支援しています。

また、海外機関や他企業への派遣研修、博士号取得補助、資格取得補助など、社員の能力や専門性をより高めるために支援を拡充しています。

ワークライフバランスの促進

仕事と家庭の調和、社員一人ひとりのライフステージに応じた時間の充実と、次世代育成支援のため、さまざまな取り組みを行っています。

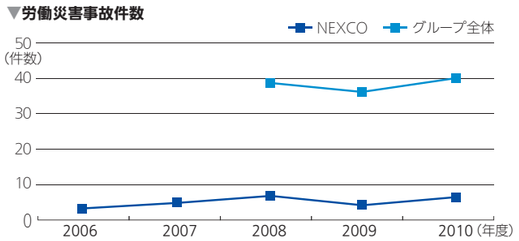
仕事と家庭の両立を推進し、次世代の育成を支援するため、時間外労働の削減や休暇取得の促進に取り組んでいます。なお、2010年度の育児休業取得者は21名で、男性は8名でした。

また、男性社員の育児休業や年休取得促進などを定めた「次世代育成支援行動計画（2008年6月策定）」を達成し、2010年7月14日に愛知県労働局から認定を受け、くるみんマークを取得しました。

労働災害ゼロをめざして

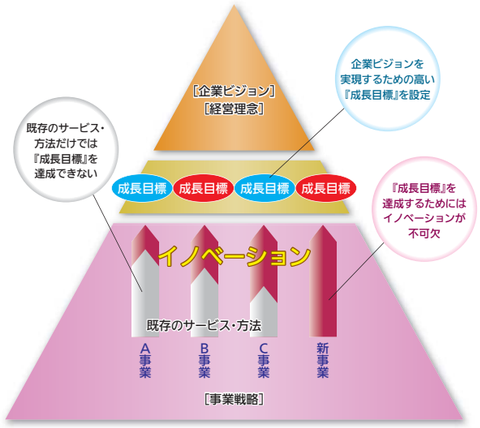
労働災害ゼロをめざして、安全衛生に関する委員会を定期的に開催し、安全チェックリストの実施状況の確認や労働災害の分析を行い、その結果を安全対策に反映しています。

▼労働災害事故件数



イノベーションの推進

企業が成長していくためには、社会の動向変化と同じように、企業としても変化・変革していくことが必要であり、社会変化に対応する施策・事業などを展開し、イノベーションを促進させていくことが不可欠であると考えています。当社グループがさらなる飛躍をするため、社員一人ひとりからのイノベーションを推進しています。



イノベーションタイム（オフサイトミーティング）風景

社員の声

NEXCO中日本グループ社員の日頃の業務におけるCSRへの取り組み

中日本ハイウェイ・メンテナンス中央（株）
甲府事業所
双葉SA エリアキャスト
小林 ふさ江

エリアキャストになって、3年ほどになります。日々、お客さまが気持ちよく旅ができるように心掛けております。時々、車いすのお客さまのお世話をすることがありますが、大変感謝され、大事な仕事を任されていると感じました。この双葉SAをご利用になるお客さまの中には、植物のこと、周辺の山のことなど、私がご案内することもなく、反対に、お客さまから教えていただくことが数多くあります。お客さまと打ちとけた会話ができる瞬間がとても楽しく、お客さまの旅の思い出の一つになれたらと思っております。またサービス介助士の資格も取得いたしましたので、一助として積極的に活用してまいりたいと思います。

中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京（株）
御殿場道路事務所 技術管理第一課長
眞田 謙之

私たちエンジニアは、道路保全・点検を実施しています。道路保全のノウハウをもったエンジニアとして、安全、安心を脅かす要因を見つけ対処することが責務です。そのため、日夜道路と接して、道路の構造物や設備の変化に目を配り、その状態を知り、将来起こりうる損傷の予測・改善・予防の方法を提案しています。

また、今後、人も道路もますます高齢化していきます。道路を支える社員もまた人間保全をしながら、道路を利用されるお客さまに、いつまでも、喜ばれるように業務を進めていきます。

中日本ハイウェイ・パトロール名古屋（株）
彦根基地 隊長
井上 正昭

我々交通管理隊でも現場到着時には、かなりの緊張感をもって初期対応にあたっているわけですから、高速道路に不慣れなお客さまにとっては、我々の到着を待っている時間というのは、長く不安でいっぱいではないでしょうか。現に我々の巡回車に気付いた時の安堵の表情は我々も使命感がより強くなる瞬間でもあります。そんな時には必ず笑顔とやさしい口調で接することにしています。特に私のような強面（こわもて）の笑顔は効果てき面です。緊張の中でのやさしい対応、これができれば一人前の交通管理隊員となるわけです。

中日本エクストール横浜（株）
茅ヶ崎海岸料金所
猶野 秀子

通っていただいたお客さまに、正確な収受はもちろん、心のこもったご挨拶、親切・丁寧な応対は気持ちの良い雰囲気を与えます。そしてETCトラブルなどの安全な対応、ブースや事務所での適切な判断やご案内もお客さまの安全な走行をお守りするものです。「お客さま第一」を常に念頭に置き、これからもお客さまの「ウオンツ」を把握し、実行できるよう取り組んでいきます。

中日本エクシス（株）東京担当部
EXPASA足柄 総支配人
後藤 光司

EXPASA足柄の取り組みの一つとして、昨年11月から毎月第4日曜日に「JAZZ LIVE」を開催しています。徐々に地域の方に浸透してきており、「ぷらっとパーク」も満車になります。4月のライブでは近隣のおばあちゃんやお子さまが音楽に合わせてダンスする姿が見られました。会場には、東日本大震災復興支援の義援金箱を設置し、住民の方々と一体となった復興支援活動を展開しています。また、地域の清掃活動に参加し、近隣の環境美化へも取り組んでおります。このように地域の方々と一緒に世界一のエリアを作り上げていければ、そのプロセスそのものが世界一になるのだろうと思っています。

NEXCO中日本サービス（株）
安濃SA サービスエリアコンシェルジュ
主任
川村 育子

私たちコンシェルジュは5年前に呼称が変わり、高速道路の総合案内所としての基本の接客に加え、「お招き」と「おもてなし」の心でそれぞれのお客さまに合わせたパーソナルな対応をすることによってお客さまに「感動」を与えることができるよう、日々頑張っております。また、私たちはお客さま対応の最前線におりますのでNEXCO中日本の看板を背負っているという自覚をもち、影で支えてくださる他部署の皆さまに感謝し、さらには2011年4月よりグループ社員の一員となった誇りをもって勤務しています。

環境方針

NEXCO中日本グループでは、環境方針を定め、持続可能社会の貢献に積極的に取り組んでいます。

環境方針

中日本高速道路株式会社は、常に変革と向上を求め、安全・安心・快適で、時代をリードする高速道路空間を創出し、地域社会の発展と暮らしの向上、日本経済全体の活性化、そして世界の持続可能な成長に貢献します。

当社の事業は、多くの方々のご協力とお客さまにご利用をいただき、広く環境と関わりを持っています。このため、当社の事業活動を通じて地球温暖化の抑制や、資源の3R（リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再生利用））の推進、地域環境への配慮に取組みます。

これらの実現のため、環境マネジメントシステムを構築し、環境の目的・目標を明らかにし、環境法令及び当社が約束した事項の遵守ならびに環境影響の予防に努め、継続的な改善に取組みます。環境マネジメントシステムの運用に当たり、その基準、手順等を定めて文書化し、定期的に見直します。

当社は、世界一の高速道路会社をめざして、環境に関わる活動や技術開発に挑戦し、次に掲げる経営上の重点施策等を実施しています。

＜環境に関わる経営上の重点施策＞

●地球温暖化の抑制

高速道路ネットワークの整備や渋滞緩和、省エネルギーなどの取組みにより、地球温暖化の抑制に貢献します。

●資源の3R推進

廃棄物の発生を抑制し、事業活動により発生した副産物の有効活用に努めます。また、「百年道路（健全な状態で百年以上維持し、後世に優良な資産として継承する高速道路）」計画の実施などにより環境負荷を低減します。

●地域環境への配慮

地域環境への貢献や動植物の生息・生育環境への負荷を低減する「エコロード（自然環境に配慮した道）」づくりを推進します。

この環境方針は、全ての従業員に周知するとともに公開します。

2011年4月28日

中日本高速道路株式会社　代表取締役会長 兼 社長CEO　金子 剛一

CO_2排出削減の目標

当社グループは、「環境・持続可能社会への貢献」をCSR重点領域の一つとして掲げ、高速道路ネットワークの整備や「百年道路」の推進、資源の3Rなどのあらゆる事業活動を通じて環境負荷を低減し、政府の環境目標達成へ積極的に貢献します。

2015年度までの短期目標を以下のとおり設定しています。

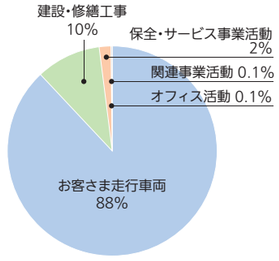
▼短期目標

指標	単位	現状値	2011年度	2015年度
CO_2排出量（オフィス活動）	t-CO_2	10,327	10,223	9,810
CO_2排出量（保・サ事業、関連事業及び走行車両）	t-CO_2/km	5,293	5,241	4,520

高速道路事業に係るCO_2の排出量

当社の事業活動により排出されるCO_2は、2009年度に約993万t-CO_2となりました。そのうち、高速道路をご利用いただくお客さまの車両から排出されるCO_2が約88%を占めています。

▼要因別CO_2排出量の割合（2009年度）



取り組み項目

CO_2排出削減の短期目標を達成するため、2010年度は以下の項目について取り組みを実施しました。

- 高速道路ネットワークの整備による環境負荷物質の排出抑制
- ETCの普及、利用促進
- 高速道路のり面の樹林化
- 省エネルギーへの取り組み
- 再生可能エネルギーの活用
- 「エコ・エリア」の推進

▼新たにネットワークが完成した名二環

名古屋南JCT付近
（伊勢湾岸道より名二環方面を望む）

高針JCT付近
（新たに建設した名二環より、営業中の名二環と名古屋高速方面を望む）

地球温暖化の抑制

NEXCO中日本グループでは、高速道路ネットワークの整備や渋滞緩和、省エネルギーなどの取り組みにより、地球温暖化の抑制に貢献します。

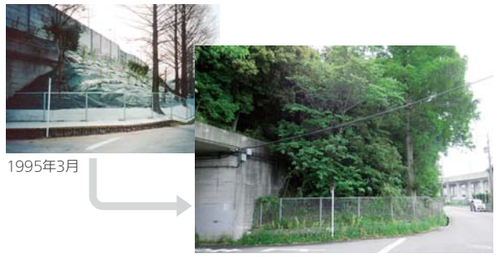
高速道路ネットワークの整備による環境負荷物質の排出抑制

高速道路ネットワークの早期整備により、自動車からの環境負荷物質の排出抑制に取り組んでいます。

名二環の開通の様子

高速道路のり面の樹林化

営業中道路での高速道路のり面（人工的に作られた斜面）の樹林化（合計1,287ha）を行い、CO_2の吸収・固定化に努めています。



1995年3月

2011年5月（施工後16年）

電気自動車用急速充電システムの整備

CO_2排出量の抑制に向け、電気自動車の普及促進に貢献するため、電気自動車の急速充電器を、高速道路のSAなど15箇所に整備しています。

電気自動車用急速充電システム

効率的な土運搬

新東名の高速道路現場では、工事中の道路の路面整備により、通常20km/hのところを50km/hで土運搬走行が可能となり、CO_2の排出を削減しました。

新東名の建設現場（静岡市）を土運搬するダンプトラック

再生可能エネルギーの活用

1995年に太陽光発電設備を設置して以降、合計約2,500kWhとなりました。名二環では、名古屋南JCT～高針JCT間の半地下構造部で必要となる昼間の電力を、ほぼ太陽光発電設備で賄っています。

名二環に設置した太陽光発電設備

CO_2排出を抑制し持続可能社会に貢献する「エコ・エリア」の推進

消費電力の少ないLED照明や、室内空調負荷を軽減できる複層ガラスなどの採用によりCO_2排出を抑制し、リサイクル建材の使用による再生資源の利用促進を進めています。

複層ガラスを採用した休憩施設

環境報告

資源の3Rの推進

NEXCO中日本グループでは、廃棄物の発生を抑制し、事業活動により発生した副産物の有効活用に努めます。また、「百年道路」計画の実施などにより環境負荷を低減します。

照明ランプの長寿命化

セラミックメタルハライドランプは、従来のランプと比べて約30%寿命が延びています。長寿命化により、ランプの交換回数が減ることで廃棄物の排出量を抑えることになります。

セラミックメタルハライドランプの照明設備

トンネル換気設備の再使用

トンネルの換気性の改善により、不要になったジェットファンを分解・整備して再使用しています。

ジェットファンの分解・整備

植物発生材のリサイクル

営業中の高速道路内で繁茂し過ぎた樹木や雑草は、適切に剪定・草刈りを行い、植物発生材として当社のリサイクルプラントで堆肥やチップを製造して植栽の雑草防止（マルチング）用資材、建設中高速道路などの植生基盤材などに使用しています。また、ペレット化を行い、サービスエリアで暖房の燃料として再生利用しています。

草刈り

プラント（堆肥化）

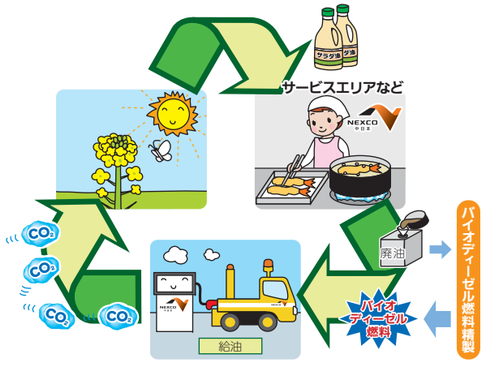
リサイクルした堆肥

ペレット化した植物発生材

廃食用油のリサイクル

サービスエリアなどの営業施設で廃棄処分されるてんぷら油などをバイオディーゼル燃料（Bio Diesel Fuel）としてリサイクルし、標識車などの燃料として利用しています。化石燃料の使用を抑制し、カーボンニュートラルであるバイオディーゼル燃料を使用することで、地球温暖化の抑制を図っています。

▼廃食用油のリサイクルイメージ図



環境報告

地域環境への配慮

NEXCO中日本グループでは、地域環境への貢献や動植物の生息・生育環境への負荷を低減する「エコロード（自然環境に配慮した道）」づくりを推進します。

エコロード（自然環境に配慮した道）づくり

道路建設は、周辺の動植物の生息・生育基盤の消失、動物の移動経路の分断、生息・生育環境の質的変化をもたらす恐れがあります。このため、当社では、建設に際して地域生態系への影響を回避・低減し、新たな生息・生育環境の創出などを進めて、生物多様性の保全に取り組んでいます。

生物・生息基盤の消失・縮小を少なくする

新東名の建設予定地でタヌキノショクダイが確認されたため、道路構造を当初盛土にする計画としていたものを擁壁に変更してその生息地を保全しました。

現地の保全状況

タヌキノショクダイ

東海北陸自動車道（東海北陸道）ではクロサンショウウオの生息環境の確保のため2004年に整備した産卵池付近で、繁殖地の安定のため新たな産卵池を整備し、生息環境を整える取り組みを行いました。

クロサンショウウオ

移動経路の分断を防ぐ

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）では、けもの道となるトンネル（高速道路下の通路）を設置し、動物の移動経路を確保しています。

アナグマのトンネル利用の様子

生息・生育環境の質的変化を少なくする

新東名のゲンジボタルが生息する区域で、河川改修工事の際に自然環境型ブロック積みを用いた自然に近い護岸の採用や、餌となるカワニナを移殖するなどの対策を行いました。

自然環境型ブロック積みを採用した河川改修

道路空間を活用して生息・生育環境を創出する

東名阪道 弥富ICと蟹江ICでは毎年春になると数千羽のサギが飛来して営巣します。当社は高速道路内が自然を守れる場所と考え、お客さまの安全を図りながら野鳥と高速道路との共生の道を選び、生息環境の保全に努めています。

サギのコロニー

お客さまとサギを守るためのフェンス

エコロードに対応した地域性苗木

自然環境が豊かな地域を通過する道路の区間では、地域に自生する樹木のタネを採取し、育て、地域性苗木として高速道路ののり面などの緑化に活用しています。

地域性苗木の育成方法

地域環境への配慮

NEXCO中日本グループでは、地域環境への貢献や動植物の生息・生育環境への負荷を低減する「エコロード（自然環境に配慮した道）」づくりを推進します。

騒音対策

事前の騒音予測や沿道自治体からの要請、立地条件に基づき、遮音壁や環境施設帯を設置しています。

名二環では、掘割上部に特殊吸音ルーバーを開発・設置して沿道環境の改善に努めました。

遮音壁の設置状況

特殊吸音ルーバー

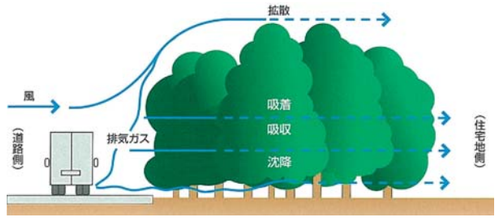
通常の舗装に比べ、水はねが少なく、さらに騒音も低減する効果（2～4db）がある舗装を採用しています。

従来の舗装（左）と高機能舗装（右）

大気汚染対策

高速道路ネットワークの整備などによる走行速度の向上と、のり面の樹林化などにより、CO_2だけでなく、NOxやSPMの排出削減・抑制をすることで高速道路周辺の大気環境を改善しています。

名神 生活環境を保全している樹林



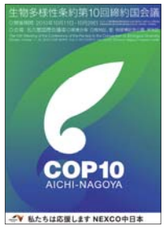
樹林によって大気がきれいになる仕組み（イメージ図）

環境コミュニケーション

当社グループでは、お客さまや地域の皆さまとともに、社会との環境コミュニケーションを大切にし、地域との連携を進めています。

COP10開催への協力

COP10開催への積極的な協力・支援として、COP10オリジナルポスターの作成・掲示や、中日新聞主催の「エコキャップアニマルプロジェクト」に賛同し、COP10の広報活動を行いました。



オリジナルポスター

エコキャップアニマル（回収ボックス）

COP10関連イベントへの参加

主なイベントへの参加状況

●『国際生物多様性の日・COP10半年前記念行事』
開催日：2010年5月22日（土）・23日（日）
場　所：オアシス21

●『生物多様性交流フェア』
開催日：2010年10月18日（月）～29日（金）
場　所：白鳥会場及び名古屋国際会議場　　など

COP10半年前記念行事の様子

生物多様性交流フェアの様子

緑の里プロジェクト

地域の皆さまとの連携・協働により、高速道路のり面などの緑化・美化をする「ハイウェイ緑の里プロジェクト」を2010年度は8箇所で実施しました。

2010年6月　名神 彦根市内

種子採集を通した児童との交流

圏央道や紀勢自動車道（紀勢道）で道路緑化に使用する苗木の育成を目的に、子どもたちの自然学習を兼ねて合計約110名の地元の小学生による地域性苗木の種子採取を行いました。

紀勢道での種子採取の様子

ギフチョウの保全

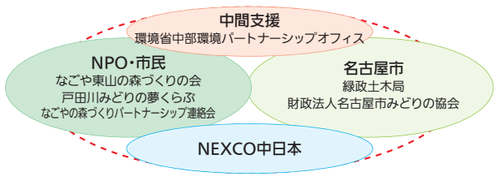
東海北陸道 城端SAでは近隣に生息しているギフチョウが飛来する環境整備（餌となるヒメカンアオイの植栽など）を行ってから約10年が経過し、ギフチョウが生息可能な環境が整ったため、2010年4月にSA内で放蝶会を行いました。

舞い立つギフチョウ

郷土種保全協議会

名古屋市やNPOと協議会を設立し、当社の緑化技術を高速道路以外でも活かす活動を開始しています。2010年度は、育てた地域性苗木を戸田川緑地と東山の森に植樹しました。

▼【郷土種子を活用した名古屋の緑化及び生態系保全推進協議会】の構成

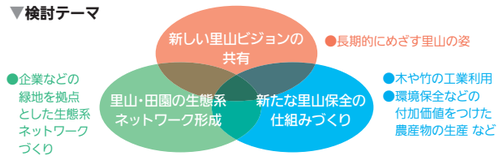


戸田川緑地での植樹

西三河生態系ネットワーク協議会の参画

愛知県内の西三河地域の生態系保全のため、地域住民・NPO・行政などと設立された「西三河生態系ネットワーク協議会」に参画し、当社の緑化技術を活かして生態系ネットワークの保全をめざします。

▼検討テーマ



ヤギによる草刈り

東海北陸道 城端SAでヤギ牧場を開設し、お客さまとヤギとのふれあいの場を提供しました。また、ヤギによる草刈りで廃棄物の削減、騒音の抑制、化石燃料に頼らない草地管理を行っています。

雑草を食べるヤギの様子

道路景観への配慮

お客さまと地域の皆さまにとって良好な環境を提供するため、「中日本高速道路景観理念」を制定し、「道路景観」の整備を進めています。

中日本高速道路景観理念

質の高い優れた社会資本を目指すために、次の基本理念により行動する。

①高速走行にあたって、安全・安心・快適を感じられる道路空間を構築する。
②高速道路の通過する地域を眺め、理解・認識できる新たな景観を創造する。
③通過する地域の自然環境や社会環境と共生する高速道路を目指す。
④お客さまや地域の皆さまが楽しめる休憩施設空間を創造する。

質の高い高速道路景観整備の事例（中央道 小牧JCT～小牧東IC）

環境会計

NEXCO中日本では、環境保全活動に関わるコストとその活動により得られた効果を可能な限り定量的に把握し、より客観的に評価することを目的に、2009年度より環境会計を導入しています。

2010年度環境会計の集計結果

環境保全コスト

環境保全コストは事業活動に応じ、事業エリア内コスト、管理活動コスト、研究開発コスト、社会活動コストに分類し、投資額と費用額のそれぞれについて算出を行いました。その結果、投資額は3,213百万円、費用額は6,575百万円となりました。

(百万円)

分類			投資額※1	費用額※2
			2010年度	
(1)事業エリア内コスト	1. 地球環境保全コスト	渋滞対策による地球温暖化防止	670	172
		省エネルギーによる地球温暖化防止	1,452	34
		植樹(CO_2吸収)による地球温暖化防止	105	33
	2. 地域環境保全コスト	騒音防止	930	1,209
		植栽・緑化対策	48	6
	3. 資源循環コスト(資源の3R)	資源の効率的利用、産業・一般廃棄物のリサイクル	8	4,872
(2)管理活動コスト			0	77
(3)研究開発コスト			0	160
(4)社会活動コスト			0	12
合計			3,213	6,575

環境保全効果

環境保全効果を、「事業活動から排出する環境負荷に関する指標」「事業活動から排出する廃棄物に関する指標」「その他の指標」に分類して整理を行いました。このうち、渋滞対策によるCO_2削減量が2010年度は1,514千t-CO_2になりました。

分類	指標	単位	効果(数量)
			2010年度
1. 事業活動から排出する環境負荷に関する指標(地球環境保全)	渋滞対策によるCO_2削減量	千t-CO_2	1,514
	省エネルギー(オフィス活動含む)によるCO_2削減量	千t-CO_2	8
	植樹(CO_2吸収)によるCO_2削減量	千t-CO_2	14
2. 事業活動から排出する廃棄物に関する指標(資源循環)	建設発生土再利用率	%	99
	アスファルト・コンクリート塊再資源化率	%	99
	コンクリート塊再資源化率	%	99
	建設発生木材再資源化・縮減率	%	96
	建設汚泥再資源化・縮減率	%	99
3. その他の指標(地域環境保全)	高機能舗装化延長	車線・延長(km)	315
	遮音壁の新設延長	m	1,800
	遮音壁の嵩上げ延長	m	1,100

環境保全対策に伴う経済効果

環境保全対策に伴う経済効果(環境保全対策を進めた結果、企業などの経済的利益に貢献する効果)については、2010年度において発生が回避されたと認められる費用を算定しました。建設発生土などの再利用・再生利用、効率的な土運搬、サービスエリアにおけるリサイクルなどにより、2010年度は、13,623百万円の費用縮減となりました。

(百万円)

分類	2010年度の取り組み内容	実質的効果(費用縮減)※3	
		2010年度	
地球環境保全(省エネルギー)による経済効果	トンネル内高効率化照明灯具の採用	26	425
	効率的な土運搬	247	
	ヒートポンプ方式の融雪装置の採用	26	
	トンネル換気運転制御の改善	101	
	自然エネルギーの活用、エコショップの整備・維持管理、オフィス活動	25	
資源循環による経済効果	照明ランプの長寿命化による廃棄物削減	14	13,198
	建設発生土などの再利用・再生利用	12,992	
	ガードレール、トンネル設備のリユース	37	
	廃食用油、植物発生材(内部利用のみ)のリサイクル	46	
	サービスエリアにおけるリサイクルなど	109	
合計		13,623	

※1「投資額」は、減価償却資産への投資額のうち、環境保全を目的とした支出額を計上しました。
※2「費用額」は、当社の費用のうち、環境保全を目的とした発生額を計上しました。なお費用額には、減価償却資産の減価償却費を含めることを基本としていますが、独立行政法人 日本高速道路保有・債務返済機構への引渡し資産にかかる減価償却費については計上しておりません。
※3 建設発生土などの再利用・再生利用に関する経済効果は、当社事業に再利用したことにより発生が回避された資材購入費、処分場への運搬費及び処理費や、他事業に再利用したことにより発生が回避された処分場への運搬費及び処理費を計上しています。

環境会計集計の基本的事項

1. 集計範囲
NEXCO中日本(一部、グループ会社を含む)の事業活動
2. 対象期間
2010年4月1日～2011年3月31日
3. 集計方法
環境会計ガイドライン2005年度版(環境省)、NEXCO中日本グループ内での独自の研究成果を参考にして集計。

複合コストの考え方

事業活動の環境保全コストのうち、複合コストとして認識されるものについては、当社グループ内での独自の研究成果をもとに設定した算定基準を参考にするなど、合理的な基準により按分集計しました。

●高速道路ネットワーク整備事業、車線拡幅事業
期待される3便益(走行時間短縮、走行経費減少、交通事故減少)の合計額に対するCO_2排出削減貨幣価値換算額の比率(0.2%)で按分

●ETCレーン整備、高機能舗装化など
簡便集計としてコストの25%で按分

CSR懇談会

社外の有識者の方々を委員とした「NEXCO中日本CSR懇談会」を設置し、企業が社会や文化の発展に果たすべき役割や意義、さらには環境に関する事項などについて、大局的な観点から当社経営陣と定期的に意見交換をしています。

CSR懇談会委員

座　長：奥野 信宏　中京大学 総合政策学部 教授
委　員：青山 佳世　フリーアナウンサー
亀山 章　NPO法人地域自然情報ネットワーク 理事長
東京農工大学 名誉教授
川勝 平太　静岡県知事
城戸 真亜子　洋画家
柴田 昌治　日本ガイシ株式会社 取締役相談役
嶋津 八生　NHK解説委員
服部 力　建築家
(株式会社服部都市建築設計事務所 主宰)

※ 敬称略　五十音順

第6回CSR懇談会

2010年12月10日、CSR懇談会の委員の皆さまに、名二環の建設現場とEXPASA御在所をご視察いただき、地域に開かれた魅力あるサービスエリアや都市部の環境に配慮した高速道路づくりについて意見交換を行いました。

委員の皆さまからいただいたご意見

●企業は日本の中だけにとどまらず、世界に打って出なければならない。「世界一の高速道路会社」をめざすという目標は、非常に良いイメージであり、それをめざして活躍して欲しい。
●名二環で採用されている技術はすばらしいと感心するが、もっと世の中にアピールしてもらいたい。
●名二環では、太陽光発電やLED照明などさまざまな環境対策を行っているが、それらを製作するために大量のCO_2を排出している。全体のライフサイクルコストをトータルで考える必要がある。
●EXPASA御在所は、これまでの高速道路のイメージと異なり、地域に開かれて、雇用の創出や周辺住民の利用を誘発している。高速道路と地域とのあり方が完全に変わった。地域としてどのように車社会や道路と付き合っていくかということについて、新たなあり方の提案をされていると感じた。

第6回CSR懇談会の様子

第7回CSR懇談会

2011年6月10日に「第7回CSR懇談会」を開催し、EXPASA足柄や新東名の沼津サービスエリアにて、多様なニーズに応えるサービスエリアづくりの現場を視察いただいた後、「CSR報告書2011」及び当社が取り組むべきCSR活動などについて、活発な意見交換を行いました。

委員の皆さまからいただいたご意見

●今回の震災で、鉄道と高速道路は社会経済の動脈としての社会的な使命と価値をもっているということが再認識された。仮に浜岡原発で事故が起こると、警戒区域である20km以内の東名や新幹線などは機能しなくなるため、新東名は東日本と西日本をつなぐ命の道である。これからは、新東名の災害上の意義をもっと強く対外的に訴え、本当に地域に受け入れられるような社会インフラの整備を進めて欲しい。
●国土施策に長く関わっているが、今はハードとソフトが両輪となっている。ハードとは物の整備で、ソフトとは新しい公共の取り組みである。ハードは地元のことを知らないよそ者でもできるが、ソフトの方はよそ者ではできない。そういった意味で、高速道路整備では地域と一体となった取り組みが非常に大事である。
●高速道路会社というと、単に高速道路をつくって運営して、ある地点からある地点まで人が移動するサービスを提供するということが基本だと思うが、やはり地域といかにうまく共生していくかというのが今の時代には大事である。

東名 EXPASA足柄(上り)現場視察